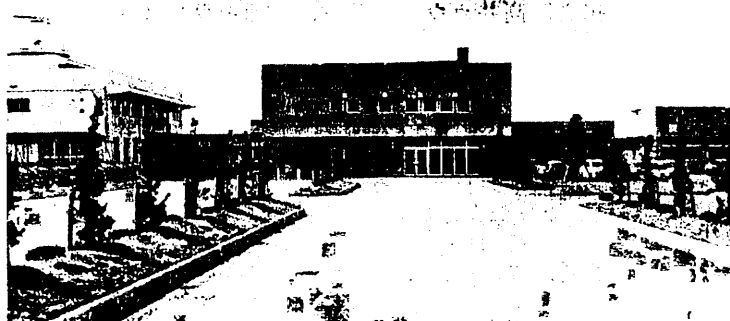


教育センターだより

第21号 (昭和53年6月)



目 次

今、私たちの指向するもの	小松順之助…… 1
教育相談研究室の1日	木村 志義…… 2
「両生類」雑考	本郷 敏夫…… 3
今年の研究事業	…… 4
研修員とテーマ紹介	…… 5
お知らせ	…… 6

今、私たちの指向するもの

教育研究部長 小 松 順之助



教育課程の改訂に伴い、新学習指導要領による移行措置がなされるわけですが、そのねらいとするところは、「人間

性豊かな児童・生徒を育てること」「ゆとりのあるしかも充実した学校生活が送れるようにすること」「国民として共通に必要なとされる基礎的・基本的な内容を重視するとともに、児童・生徒の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること」の3点で、その真の意図するところは「自ら考え、正しく判断できる力を養う教育への質的変換」を求めるところにあるとされております。

また、審議会がその答申で、国際社会の中で信頼と尊敬を得る日本人を育成することに特に留意する必要があるとして、心の豊かさを求めていることは、たしかに私たちの生活は物質的にこそ満たされはしたが、経済成長のめざましさに隠れて、人間の本質にもとるような多くの問題が派生した否めない事実を指摘するものに外ならないと思います。そしてこうした現象の背景に、物質優先のあまりその犠牲となって、心の所在をなおざりにした人間の弱さを感じないわけにはまいりません。もし私たちが現在の社会機構の中で、そうした背景をなした責めを負わなければならないとすれば、人間によって壊されたもの、失われたものは、やはり私たち人間の手によって回復させなければならないと思います。せめて次代を背負う子供たちには、まさに強靱な精神の持ち主であって欲しいし、21世紀の担い手にふさわしい時代人の育成こそ、これからの

教育に課せられた使命であると思います。

人間を育てることは、身心共に健全であることを基調とすることは言うまでもないことですが、児童・生徒ひとりひとりにそれを望むとすれば、まず教師自身が教育の原点に立ち返り、自らの責任と職務の厳しさを自覚し、日々の研さんに努めることを怠ってはならないと思います。それだけに教育の仕事は大変難儀なことですし、特に今日のような多様化した児童・生徒を対象としなければならない教育現場は、抱えるところの問題解決のための努力はもちろん、児童・生徒の個性や能力に応じた教育に心がけ、より魅力的な学校でなければならぬでしょう。

そうした指向のもとに、教職員の方々がひたすら児童・生徒の育成のために、多くの課題に取組み、自己啓発に根ざした研究活動を続け、その成果をもとに教育実践を成し遂げようと意欲を燃やしておられることに、心から敬意を表すとともに、当教育センターがその総力を挙げて皆様にお手伝いをし、お役に立てるならば、まことによるこびとすることでありませう。

本年は5月以降11月までに99講座が開設され、受講者約2,500名(延7,000名)が予定されておりますが、より多くの先生方が、積極的且つ意欲的に参加され、研究・研修に取組まれ、教育実践の手掛りを一層確かなものにされ、各々の現場に大きな成果と実績をあげられることを心から期待いたし、心豊かな人間形成の教育への指向により、秋田県教育のますます発展充実されることを念願してやまないものであります。

教育相談研究室の1日

教育相談研究室 木村志義

相談に使われている部屋

第1相談室：カウンセリングと催眠療法

第2相談室：カウンセリング

第1プレイ・ルーム：遊戯療法、年長児用

第2プレイ・ルーム：遊戯療法、年少児用

以上の4つの部屋がカウンセリングや遊戯療法に使われている。

研究室、ここでは向山室長、熊谷、木村、品川、高井、三浦のメンバーと、鶴沼、杉山研修員の計8人がそれぞれワイワイやっている。これに週1～2日、秋大の臨時教員養成課程（現場の先生が内地留学の形で1年間研究する）の情緒障害の研究をする先生3人が加わる。相談に来る人は待合室に入るとインターホンのボタンを押す。これは研究室の三浦セラピストの机の上にあるインターホンに通じ、ピーという音を発する。現在ピー音に応待するのは鶴沼研修員で、だいぶ応待のし方がうまくなったと杉山研修員に自慢している。

9時、ブザーが鳴る。

鶴沼先生「ハイ、オハヨーゴザイマス。ドナタデスカ」すかさず返事「オハヨー」、別の返事「Bデチューケド」、「?」、実は2人の子供が一度に返事しているので「?」は先生面喰っているのである。ところがその子たちはもう研究室に入って来てA君は「計算機!」といって計算機を持ち出し、パチパチやる。B君は三浦セラピストのそばに何とはなしに寄っていく。

計算機を与えるもの、話しかけるもの、しかし、返事はこちらが思う通りには返って来ない。視線はほとんど合わない。だが、これがこの子たちの遊戯療法へのだいたいな導入部なのである。

主訴、自閉傾向を持つ子。(現在33人在籍)

担当、品川、三浦両セラピスト

……………10時、ブザー

11時、ブザー鳴る。杉山研修員「ハイ」と応待。

Eちゃんは小学校の3年生の女の子である。

彼女は夜眠れない。父も母もそんなはずはない、という。「羊を数えてごらん」と父。「楽しいことを考えて」と母。そうすれば眠れるはずだと両親は言う。

だが彼女は眠れない。

3年生になって彼女は2階の見晴しのよい部屋をもらった。すばらしいベッドを買ってもらった。すてき

なお部屋とベッド。うれしくて心はワクワクはずんだ。まわりの人は「1人で寝るって、感心ね」という。だが眠れない。心のずうっと奥の方がとっても淋しいのだ。

主訴、夜眠れない（安心して、満足して眠っていないということ）

担当、高井カウンセラー、三浦セラピスト

—————昼休み、ブザー「ごめんなさい、早く来すぎてしまって、どうぞゆっくり休んでください」とF君のお母さんの声—————

2時、ブザー、またブザー、この時間帯も2ケース主訴、落ち着きなし、乱暴

小学校4年生、男

担当、熊谷カウンセラー、高井セラピスト

H君の母は美人である。笑うと周囲がキラキラと輝く。熊谷カウンセラーはうっとり、ボーとなるのであるが残念なことに6回の面接のうち1回、ほんの1、2秒笑っただけである。

H君はプレイ・ルームではオシャベリで人なつっこく、飛び抜けて遊び上手である。高井セラピストは毎回満足して帰ってくる。

だが、H君は家でも学校でも飛び抜けて落ち着かず、乱暴である。

本人に対する母の評、兄や妹とまるっきり違ってで
きが悪い。

本人に対する学校の評、こんな子は見たことがない。熊谷カウンセラーと高井セラピストは「そうかなあ」と言っただけ少し悩むのであるが、「H君がいいから、いいじゃないか」と言い続けているのである。

……………ブザーが鳴る。

面接と遊戯療法が続く……………

4時 ブザー

主訴、登校拒否

中学校3年 女、M子

担当、木村カウンセラー

この時間にM子が話したこと、「真理、本当のこと確かなこと、体操。そして自分がわからないこと」

……………ブザーはもう鳴らない。

—————向山室長は「カウンセラーの目」の原稿をガサガサとそろえながら、「今日も終わったなあ」とか「ごくろうさん」とかブツブツ言っている。寺内ガラスも帰ってゆく。

「両 生 類」 雑 考

理科研究室 本 郷 敏 夫

今度の小・中学校理科学習指導要領の改訂では、一、二を除き、新しい教材は加えられていない。前回入ってきたいわゆる新教材も精選されて、その多くが削除されたり、軽減されている。これは要するに「無理なくやれるものを」「よりよく生かして」実施するというので、ここのところが「ゆとりと充実」という言葉で表現されている訳である。高校理科の場合は、前回同様、教科の再編、教科内容の分割と統合ばかり目につくが、「無理なく」と「よりよく生かす」の考え方は、小中高一貫して変わらないはずである。

又生物分野において、ヘチマとかカイコとかメダカといった材料の指名を撤廃したことは、地域の特性を生かす立場から見ると、むしろ当然のことで、これではようやく正常な理科がやれるという感じがする。とは云っても、身の回りにあるもろもろの材料の中から、最も適切なものを選び出すということは決して容易ではない。それぞれが研修を深めるとともに、情報交換を密にし、互いに資料を提供し合って、はじめてなし得ることであろう。そして、ここで要請される教師の研修も、「無理のない」ものでなければ長続きしないし、内容も「充実」しないと考える。

ところで、私は「両生類」をライフワークの一つにしている。身近かなカエルやサンショウウオの仲間をよりよく知りたいという衝動の継続である。「山菜・キノコ」も隠しきれない趣味なのだが、こっちの方は多分に実利的な力が働くので、ある場面では遠慮した物の云い方を必要とする。「両生類」の方はその点、どこでも気がねすることはないのだが、今度は職業柄、「教材としての両生類」が要求されるので、これが負担に思えることもある。けれども、いざ所員研究発表の順番がまわってくると、つい「両生類」に頼ってしまう私である。

そういう訳で、当センターの生物実験室には、今年も何種類かの両生類の卵・オタマジャクシが入れかわり出入りすることとなる。毎年同じようなことの繰返して、無駄が多く発展性の乏しい仕事だが、これによって何かに気付き、何かを試みることができる。

①県内産の両生類は、カエル類10種、イモリやサンショウウオ類4種。このうち、近年最も減少しているのはニホンアカガエルでなかろうか。農業の近代化と居住域の都市化の影響をもろに受けて、全滅に近い。

②発育の早いのはタコガエル。産卵後1週間でふ化し、その後3週間で変態、上陸してしまう。遅いのがツチガエル。一冬越さなければ決して変態しない。

③水温を30℃まで上げて飼育すると、普通なら80日位はかかるはずのヒキガエルのオタマジャクシが、3週間で変態してしまう。体長7mm、気の毒なほど小さいが、平気で歩き、跳ねる。

④ところが、20℃に上げただけで奇形が現れてくるのはクロサンショウウオ。卵割が不規則になっていびつな胚ができてくる。

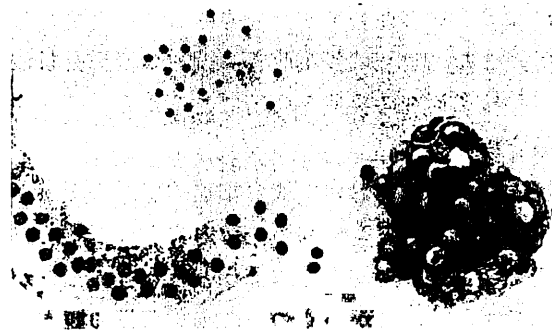
⑤局所生体染色はやってみると意外とやさしい。トウホクサンショウウオの胚は大きいし、色が薄いので美しく仕上がり、胚表の移動を明確に追跡できる。

⑥タコガエルのオタマは餌を与えても全然関心を示さない。素焼片などを入れてやると、下にもぐり込んでしまい、めったに出て来ない。

⑦近縁種で区別のしにくいモリアオガエルとシュレーゲルアオガエル。それぞれのオタマ集団に餌をやると、モリの方が早々と群がる。尾のひれの幅がわずかに広いので、餌のにおいを遠くまでまき散らすらしい。

⑧オタマの種名同定には、歯列の配列状態が重要な標徴とされている。が、肝腎の歯式に合わない種類が実在する。シュレーゲルアオガエル、タコガエルなどの標準歯式は誤認ではないか。——等々。

こうした雑然たる小知識は、文献を調べても確めかねる場合が多い。本人がいくら感動をもって体験したとしても、つまりは「生物の多様性」とか「個体変異」とか「地域性」というような言葉で一括されてしまい、期待する評価は得られそうにない。やるべき方向としては、客観的なデータをふやすことだが、その方は遅々としてはかどらない。けれども、そのうち一つでも二つでも「無理なく」解明でき、自信をもって教材に活用できるようになるならば、まこと「ゆとりと充実」にかなうことだとひそかに思っている。



カエルの種類によって、卵の大きさもまちまち。
上：ツチガエル、下左：ヒキガエル、下右：タコガエル

今年の研究事業

昭和53年度 教育センター所員発表会

今年の研究事業の中から、教育研究法委員会の研究の構想などについて、年度末に行われる所員発表会の二つの事業にスポットをあててみる。

手軽にできる授業研究の

あり方を求めて

教育研究法委員会

これまで当センターの研究業務は各研究室単位に進められてきました。ところが最近、各教科・領域にまたがる共通テーマについての研究が策定しにくいとか、一研究室では担当しにくいテーマがあり、処理が困難であるなどの問題がでてまいりました。

そこで、全センター的な視野に立って時宜に適したテーマを設定し研究を推進しようと昭和52年1月に準備委員会を作り、同年4月からプロジェクトチームを編成するなどして、全所員の協力のもとに研究に取り組んでおります。

昭和52年度は、教育研究法の中でも「授業研究」に重点をおき、分野を教授・学習過程にしぼり、そのための最も実践的な研究手段として「授業分析」を取り上げております。

まず、授業分析についての諸観点、技法、成果等についての先行情報を収集し、それらを実際に試みながら検討を加えてまいりました。しかし、数多くの授業分析は、理論は確かにち密ではありますが、現場で実践するにはかなり困難であることがわかってきました。

そこで、例えばカセットと最大二人の教員で手軽にできる分析法を生み出す必要がでてまいりました。

今年度は、授業記録のとり方、授業分析の手法等について実践を通して研究を進め、小人数で済む記録、焦点的な分析など使いやすいものにしたと考えております。また、自己の授業改善に役立つ授業分析法や、学校での授業研究の実態と要請にこたえるものにしたと策定中です。

教授・学習過程において教育相談的配慮の面から、教師の発言内容、児童生徒の発言内容を分析し、自主的態度、学習意欲の向上をみようというものなどがその一例です。そのほかいくつかの授業分析の観点をもとに「手軽にできる授業分析」（仮題）の冊子を刊行する予定でおります。現場で実践的に研究を進めておられる先生方の御協力をお願いいたします。

本年度の所員研究発表会は、昭和54年2月2日(金)当センターを会場に開催されることになっている。

発表者は、教育研究部では、2か年の研究を続けた高井研究員を含む5名、科学技術研究部は2名である。

研究の構想、抱負などについて紹介する。

◆教育研究部

経営研究室 今井敏雄

学校経営革新の実践課題のひとつに、教師の研究・研修の充実があげられる。今回は校内研修にしぼってどのような問題を抱えているかを明らかにし、規模に応じた有効な研修の在り方を事例を基に考察する。

教科研究室 金田文昭

高校学習指導要領の改訂を前に、高校英語の学力を全国的には握し、特に英語Bにおける学力の現状を過去の秋田県標準学力検査の結果と比較し、その問題点をとらえ、学習指導法改善の一助としたい。

教育相談研究室 熊谷幸正

毎日の授業に教育相談の機能を生かすことによって主体的学習能力が、どう育つかを実践によって研究する。すべての児童・生徒が、自分なりに学ぼうとする意欲をもち、学ぶ能力を身につけることを信じて。

教育相談研究室 高井慶蔵

いろいろな問題をかかえ「まがり角にきた特殊学級」（小中学校精薄学級）などと言われているが、その本来の姿を求めて、総合的な学習としての作業学習を中心にしながら、実践例を通して考察してみたい。

教育工学研究室 吉富庸四郎

教育工学的手法を用いた学習指導の改善研究は、全国的な傾向になってきているが、フィードバックについての研究が単調である。今回、個々の進度差に応じたフィードバックのあり方について取組んでみた。

◆科学技術研究部

理科研究室 本郷敏夫

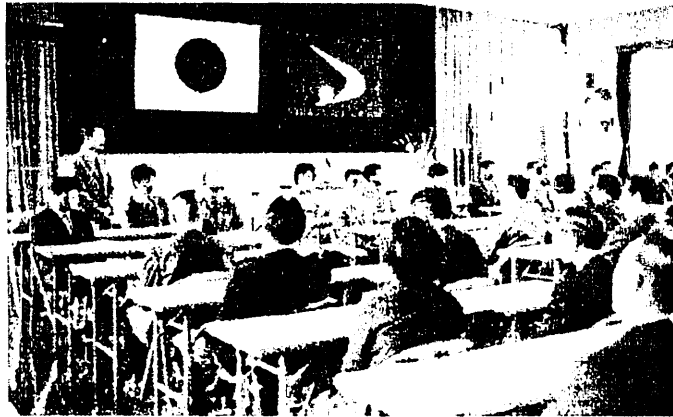
これまで集積してきたカエルやサンショウウオについての資料を、教材として活用する立場から見直し、まとめてみたい。足りない分も多いので、今は発生に関する二、三の実験を繰返し、検討を重ねている。

技術家庭研究室 越後市朗

当研究室では、先に木材と金属の切削加工についての研究を行い発表したが、今回は、金属の塑性変形・塑性加工について、日常の学習に役立つような資料の検討、作成をしたいと考えている。

昭和53年度研修員とテーマ紹介

本年度の研修員として、16名の先生方をお迎えした。この研修員制度は、学校において、教育実践や教育研究に実績を上げ、意欲的な研修をしている教職員の中から若干名を選び、県教育センターにおいて研修を行い、教育専門職としての資質の一層の向上を図ると共に、県教育の充実発展のための指導者養成を企図しており、現在まで146名の修了者を



送り出している。

期間は5月1日から9月30日までで、勤務時間は所員と同じであり、研修の内容は、共通研修(研修講座の受講、所員からの指導、所外研修等)と分担研修(指定された教科・領域に基づく研修課題による個人研修)で、

分担研修の研修テーマ検討会は5月8日から15日までの間に各研究室で行われた。この後、経過報告会が7月中旬から下旬、研修成果報告会が9月22日(金)の子定となっている。なお、この研修成果は「研修集録第10集」として今年中に発刊され、各学校に配布される。

研修員と、そのテーマは次のとおりである。

経営研究室

- 本荘市立新山小学校 教諭 手賀 昭士
児童の係活動指導についての考察
- 鹿角市立花輪第一中学校 教諭 竹村 博志
学級担任と教科担任の連携について
—学業指導を中心として—

教科研究室

- 鹿角市立花輪小学校 教諭 高橋 節夫
文学的文章学習指導の—考察—
—表現理解の関連指導—
- 湯沢市立湯沢南中学校 教諭 金 勝治
数学科における学習指導の改善
—単位時間内の学習の成立について—
- 県立横手高等学校 教諭 松田 至弘
これからの主題学習

理 科 研 究 室

- 男鹿市立北浦中学校 教諭 安藤 栄明
電流のエネルギー教材についての—考察—
- 横手市立横手北小学校 教諭 佐々木 清
小学校における「物の溶け方」の指導
—溶けた物の広がり方を中心に—
- 八森町立八森中学校 教諭 工藤 哲弥
中学校における顕微鏡観察の指導法について
- 県立男鹿高等学校 教諭 鎌田 武美
野外観察指導資料の作成とその活用
—男鹿半島の地殻現象を中心として—

教育相談研究室

- 本荘市立北中学校 教諭 鶴沼 貞
中学校における教育相談の充実について
- 県立秋田養護学校 教諭 杉山 義信
動作訓練による脳性マヒ児の動作改善の事例研究

技術家庭研究室

- 若美町立瀧西中学校 教諭 谷 秋二
木材加工における安全治具の工夫
- 大館市立南中学校 教諭 笹谷 昌宏
動力伝達を理解させる教具の工夫
—機構模型の製作を中心に—
- 横手市立横手南中学校 教諭 細谷 剛
トランジスタのはたらきと増幅装置の指導について
- 県立由利高等学校 教諭 伊藤テツ子
揚げ物学習における調理実験の—考察—
—油の変敗を中心に—

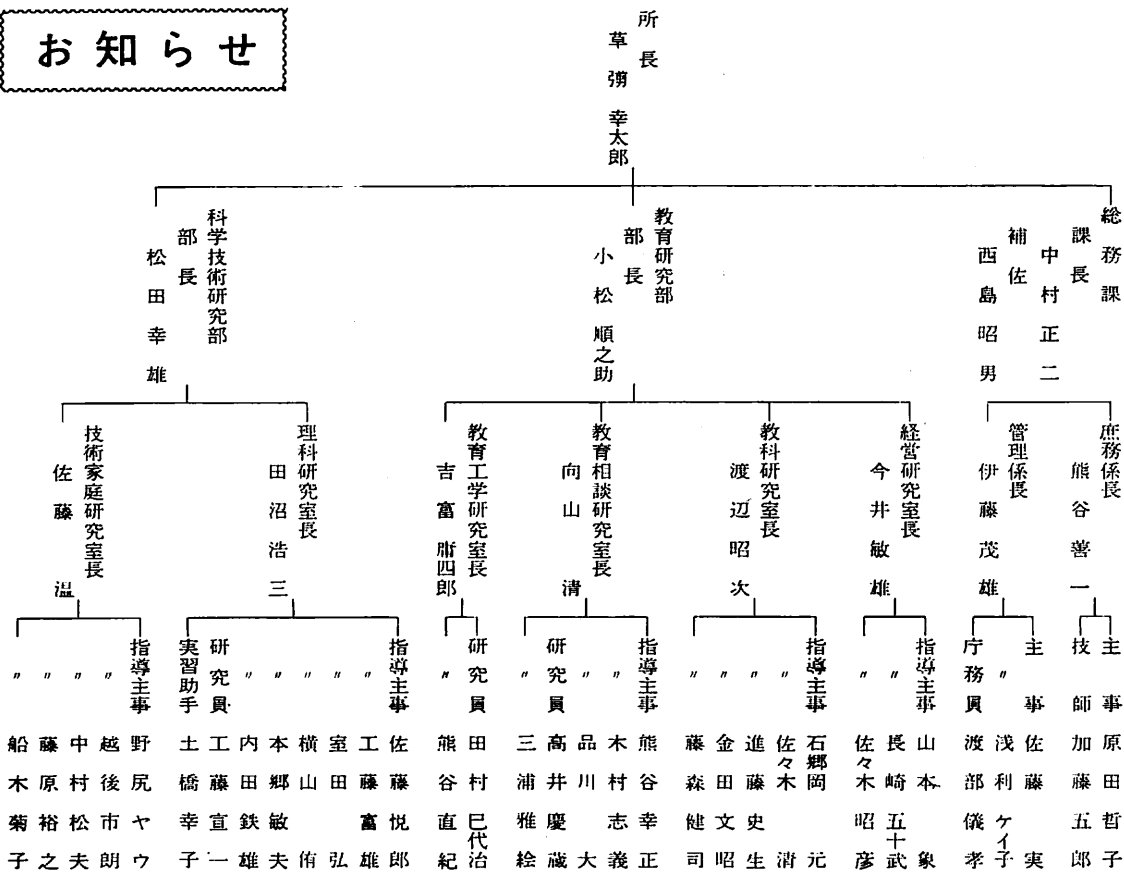
教育工学研究室

- 秋田市立保戸野小学校 教諭 工藤 知子
つまずきを治療するための効果的な機器の活用について
—小学校2年国語 読むことの学習を通して—

お知らせ

秋田県教育センター機構と担当者一覧

所在地 秋田市仁井田緑町四番二号
TEL (〇一八八) 三二一三五九四
(昭和五十三年四月一日現在)



・今年的人事異動により、担当者が上の一覧のようになりました。

<転任>

- | | | |
|--------|-------|-----------|
| 総務課長補佐 | 伊藤 守一 | 県民会館施設課長へ |
| 教育研究部長 | 三浦 智孝 | 秋田北高教頭へ |
| 指導主事 | 小島 貞明 | 文化課へ |
| 研究員 | 原 香子 | 県立聾学校へ |
| 研究員 | 岡部 隆 | 秋田城南中学校へ |
| 研究員 | 後藤 晃男 | 角館中学校へ |
| 研究員 | 高桑 昭 | 土崎中学校へ |

<新任>



- | | | | | | | |
|--------|-------|-------------|------|------|------|------|
| (小松) | (西島) | (佐々木) | (三浦) | (田村) | (熊谷) | (工藤) |
| 総務課長補佐 | 西島 昭男 | 八橋青年の家から | | | | |
| 教育研究部長 | 小松順之助 | 県立本荘高校(岡)から | | | | |
| 指導主事 | 佐々木昭彦 | 県立秋田北高校から | | | | |
| 研究員 | 三浦 雅絵 | 日新小学校から | | | | |
| 研究員 | 田村巳代治 | 大曲小学校から | | | | |
| 研究員 | 熊谷 直紀 | 稲沢小学校から | | | | |
| 研究員 | 工藤 宣一 | 土崎中学校から | | | | |

・理科学研究発表大会のお知らせ

例年当センターを会場にして行われている、理科学研究発表大会は、本年度第13回を迎え、11月7日小学校、8日中学校、9日高等学校と3日間開催されることになりました。

大会開催要項は、7月上旬発送する予定ですが、要項ご覧の上、多数のご参加を期待しています。

・センターへの諸手続きについて

研修講座の受講についてのご案内は、昭和51年度発行の研修講座案内や、昭和53年度研修講座案内(各校に配布)に詳細に掲載してありますが、研修講座欠席の場合、事前に文書による手続が不可能の時は、とりあえず電話(32-3594)でご連絡ください。その後文書による手続を完了してください。

宿泊施設のご利用の時は、葉書などで5日前に申込みください。宿泊利用料金は、昨年同様1泊2食付で1,400円です。

教育センターだより 第21号

発行年月日 昭和53年6月10日
編集発行者 秋田県教育センター
秋田市仁井田緑町4番2号